

|                |  |      |      |
|----------------|--|------|------|
| 事項             | おうとうの灰星病は落花期頃の葉に赤褐色の斑点を生じる   |      |      |
| ねらい            | 平成19年、県南地域の一部園地で落花期頃から、おうとうの葉に赤褐色の斑点症状の発生が目立った。その原因を検討した結果、灰星病による症状であることが明らかになったので参考に供する。  |      |      |
| 指導参考内容         | <p>1 症状<br/>落花期頃から葉上に0.5～2.0mmの赤褐色斑点を生じる。中央部に灰白色の斑点を伴うものもある。病斑は、葉の伸展に伴いせん孔する。黄変落葉はしない。</p> <p>2 病原菌<br/>本症状を引き起こす病原菌は、オウトウ灰星病菌 (<i>Monilinia fructicola</i>) である。</p> <p>3 防除対策<br/>灰星病の花腐れが多いと多発するので、「開花直前」と「満開5日後」に有効薬剤の適期散布を徹底する。花腐れは見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど処分する。<br/>また、本症状が発生した園地では菌密度が高まっているので、その後の実腐れの防除も徹底する。</p> |      |      |
| 期待される効果        | 本症状の原因が明らかとなったので、適切な診断と防除対策が可能となる。   |      |      |
| 利用上の注意事項       | 本症状は、褐色せん孔病に類似するので注意する。  |      |      |
| 担当部署<br>(担当者名) | 青森県農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター<br>(小笠原博幸)   | 対象地域 | 県下全域 |
| 発表文献等          | 平成19年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター試験研究成績概要集  |      |      |

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 自然発病葉「北光」



写真2 接種により発病した葉「高砂」



写真3 褐色せん孔病「佐藤錦」

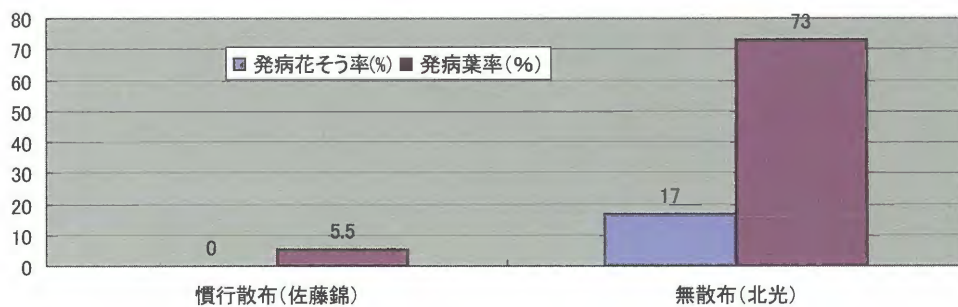


図1 開花期の防除と発病状況 (平成19年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

- (注) 1 花腐れ調査: 5月18日、1区3樹、1樹当たり100花そう  
 葉発病調査: 6月7日、1区2樹、1樹当たり100葉  
 2 慣行散布: 「開花直前」と「満開5日後」に有効薬剤を散布、無散布: 「開花直前」と「満開5日後」を無散布  
 (試験期間以外は慣行防除)

表1 灰星病と褐色せん孔病の比較

|       | 灰星病                        | 褐色せん孔病                    |
|-------|----------------------------|---------------------------|
| 症 状   | 0.5~2.0mmの赤褐色病斑で、やがてせん孔する。 | 褐色の円形病斑で、やがてせん孔する。        |
| 発生時期等 | 花腐れの多い園地で、落花期頃の発生が多い。      | 5月下旬頃から発生するが、収穫期以降の発生が多い。 |
| 黄変落葉  | なし                         | あり                        |